



平成 27 年度伊豆市議会第一委員会視察研修報告書

視察先 1 日目 新潟県糸魚川市 糸魚川市役所・フォッサマグナミュージアム
2 日目 長野県安曇野市 安曇野市役所
3 日目 長野市 長野役所

平成 27 年 7 月 14 日～16 日

山田 元康

7 月 14 日<こだま 630 号>AM9:26 東京駅着 9:44 発<はくたか 557 号>に乗車。北陸新幹線開業と共に、賑わいの増す北陸地方。12:04 分糸魚川駅に降り立つと、先ず目に入ったには、駅構内のインフォメーション看板に {歓迎ようこそ糸魚川世界ジオパークへ 静岡県伊豆市議会 第一委員会の皆様} との出迎え看板が目に入る。やるなと思いつつながら駅を出て駅舎を振り返り写真に収める。ホームは三階建てになっておりフォッサマグナの茶色と翡翠のグリーンをデザインした駅舎になっていた。駅に直進する道路・歩道・アーケードは整備され電線も地下式にされていた。しかし、乗客の数も閑散とし、アーケードを歩く地元民、まして観光客の姿はほとんど無くものさみしい感じがした。

駅周辺で各自昼食を済ませ、糸魚川市役所のマイクロバスが迎えに来てくれた。13:30 より糸魚川市役所委員会室にて双方の挨拶の後、渡辺課長の説明が始まる。

先ず糸魚川と言う川は無く、大きな川は姫川になる。それを聞き我々は糸魚川と言う川が存在するのだと勝手に思っていたことに驚いた。糸魚川市は、新潟県の最西端に位置し、南は長野県、西は富山県と接し、平成 17 年 3 月 19 日に糸魚川市・能生町・青海町の 1 市 2 町が合併し新たに糸魚川市が誕生した。

面積は 746.24Km² (ほぼ伊豆市の倍) 海岸の長さ 45Km、人口 45,493 人である。世界ジオパークに向けての取り組みとして、古くは 1987 年「フォッサマグナと地域開発構想」フォッサマグナを軸に、学術・文化・観光を結びつけ、個性あるまちづくりを目指す「世界ジオパーク」の考え方を先取りし 1989 年 (平成元年)「糸魚川私立博物館構想」を提言、1990 年「フォッサマグナパーク (断層露頭)」完成。1994 年「フォッサマグナミュージアム」開館。2007 年 9 月「世界ジオパーク」をめざす。日本からの「世界ジオパーク」実現に向けて同年 12 月 26 日、会長 糸魚川市長とし全国 13 地域「日本ジオパーク連絡協議会」設立。2010 年 8 月 21 日、会長 糸魚川市長とし、構成 53 地域、特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク設立 (法人化) した。

世界ジオパークへの経過は、2009 年 7 月 12 日～15 日世界ジオパークネット

ワークが現地審査。同年8月22日、日本3地域（糸魚川・洞爺湖 有珠山・島原半島）が日本初の世界ジオパークに認定。2013年9月9日糸魚川市が世界ジオパークに再認定される。（世界ジオパークは4年ごとに再認定を実施するので）

現在のジオパーク推進室のスタッフは科学（職員）5名・技術（契約職員）1名・行政（職員）7名・行政（契約職員）1名の14名体制で行っている。

引き続き平成26年にリニューアル工事された。糸魚川フォッサマグナミュージアムに案内された。かなり予算をかけた建物ではあるが、ここも又訪れている方はいなかった。内部の説明を受ける。技術スタッフで（名前は忘れたが）地質学者この方学生の頃伊豆市にも調査に来ているとのこでした。

フォッサマグナ（大きな溝）の意。また「糸魚川―静岡構造線」が有り、改めて静岡県のフォッサマグナも記憶に残った。世界最古のヒスイ文化発祥地であることも学んだ。

下 翌日15日バスにて長野県安曇野市に向かう、途中道の駅（白馬）にて休憩、矢王わさび農場にて（昼食）13:00安曇野市役所につく。真新しい、木をふんだんに使った庁舎に驚く。本年1月に庁舎竣工したばかりだそうで、外壁はもとより、内装の壁・天井・階段、に杉材を使用しており中は杉の木の香りがした。驚いたことに議場も、壁・天井、共全て杉板を使用してあったが若干暗い感じがした。

委員会室に案内され、平林徳子副議長の歓迎の挨拶を受ける。安曇野市は、長野県のほぼ中央に位置し、平成17年10月5町村の対等合併により安曇野市が誕生。行政区域面積は331.78km² 人口99,000人、予算417億4000万円、議員数25名で、市の花はわさびの花（伊豆市も同じ）である。

ここでは都市計画による「線引き」廃止の経緯と効果について、レクチャーを受ける。15:20行政視察終了後、市役所前で記念写真を撮り、安曇野市役所を後に、EH酒造見学の後、一路ホテルに着く（18:00）

16日朝には雨が降っており、皆ホテルで傘を買ったが、長野市役所に徒歩で向かう時には殆んど傘の要らない状態で、15分程で長野市役所に付いた。

長野市役所では、地域おこし協力隊の活動と、中山間地域における乗合タクシー運行についての行政説明である。まず、交通政策課による説明で、中山間地域の利用者減少による路線バスの不採算路線の廃止や縮小等が行われ交通空白地域や交通不便地域が広がり、高齢者や子供の通学の移動手段の確保を目的として、地域が主体となりタクシー事業者に委託し、地域の実情に即した乗合タクシーの運行を始めた。運行開始は平成17年8月29日より、2地区、平成19年9月に3地区、平成22年6月1地区と現在は6地区を、週3日～5日の運行を行っている。市の平成27年度運行補助金予算は、14,907千円で、利用者は1日平均7～8人だそうです。

次に、地域おこし協力隊の活動報告を受ける。

人口減少や高齢化が著しい中山間地域において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住、定着を図り、もって地域の活力の維持、強化をはかる為、国の施策、「地域おこし協力隊推進要項」に基づき、特別職の公務員として全国より募集をした。その結果、現在では男性 12 名、女性 8 名の 20 名が 10 地区の協力隊員として、竹細工職人、豆腐作り、米の栽培、狩猟免許取得による有害鳥獣捕獲等様々に働いている。又協力隊員の活動終了後の定住、定着策をどのように考えているのかの質問には、現在苦慮しているが、将来の自立（起業）につながる資格取得やスキルアップを図ってもらい、資金を貯めるためのアルバイト等は認めている。任期後も長野市に定住してもらうことを期待している。等の回答でした。

長野市役所の行政視察も終え、バスにて善光寺の見学に向かう、善光寺表参道より大本願仲見世通りで昼食（蕎麦）を食べ、本堂（国宝）に入り、お戒壇めぐり（床下の暗闇の回廊で錠前に触れると極楽に行けると言う）をめぐり、帰りには、法要の導師を務める善光寺女性住職が本堂に向かう際、参道にひざまずいて参拝者の頭を数珠で撫でて功德を受けるという「お数珠頂戴」に丁度私も逢うことができ、功德を頂いてきました。

15:41 発・長野駅<はくたか 568 号>—東京<こだま 675 号>にて帰路に着く。